

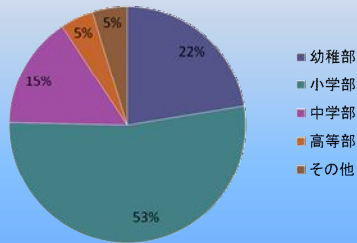
【実践報告】
日本語補習授業校幼稚園における
取り組みを考える
ーボン日本語補習授業校での実践からー

奥村 三菜子
ボン大学・ボン日本語補習授業校
okumura@uni-bonn.de

1. ドイツの日本語補習授業校幼稚園の現状と問題点
2. 教室活動実践
3. 実践から得られた所感と今後の課題

1. ドイツの日本語補習授業校幼稚園の現状と問題点

●在籍児童生徒数とその割合 (2005年現在, 奥村 2005)



幼稚園は在外教育の対象には含まれていない。

●補習校幼稚園における問題点

(1) 講師の研修が困難

- ・専門の指導者がいない → 研修の機会がない
- ・幼稚園に適したカリキュラム・教材がない
- ・教育方針／指導目標があいまい

《日本での幼稚園教諭経験者の発言》

補習校に勤め始めた頃は、日本の幼稚園と全く同じようなやり方をしていたけれど、なんかうまくいかなかった。やっぱり、子どもの質も、教育の目的も違うから、変えなきゃダメなのだということに、だんだん気づいてきた。でも、どうやって勉強していいかわからない。

●補習校幼稚園における問題点

(1) 講師の育成・研修が困難

- ・専門の指導者がいない → 研修の機会がない
- ・幼稚園に適したカリキュラム・教材がない
- ・教育方針／指導目標があいまい

(2) 合同クラスになりやすい

- ・助成金の対象外 = ほぼ全額、受益者負担
- 資金不足の場合、合同クラス化

《合同クラスの問題点》

- 一クラスの児童数増大 → 講師の負担大
- 児童の成長差 → 発達に即した活動の困難
- 児童の言語力差 → グループ活動の困難

2. 補習校幼稚園における教室活動実践

●補習校実践を考えるにあたっての留意点

1. 日本語力の弱点を補うべき活動の工夫
〈補習校児童の日本語力の特徴〉
 ・文脈／場面への依存度が低い読み書き言語能力が低い
 ・共通の情報／認識を持たない他者との言語コミュニケーション力が低い
2. 認知発達・情緒発達にも働きかける活動の工夫
3. 週に一日のみの補習校活動の限界
4. 一クラス内の児童の日本語能力差が大きい
 - a. 生育環境による個人差
 - b. 合同クラスによる年齢差

●ボン日本語補習校幼稚園における実践

ボン日本語補習校(1974年設立)
 ・実践時期: 2006年度～2008年度
 ・対象クラス: 幼稚園 (年少・年中・年長組) 3クラス
 ・対象児童数: 合計 約20名 (各クラス 約6～7名)
 ・実践に携わった講師: 幼稚園講師 3名

A. テーマシラバス:
 「持ち帰りタスク」「共有タスク」

B. 読み聞かせカード記録

A. テーマシラバス

- 一日の活動に一貫性を。
 →「今日のテーマ」に沿って、各種活動をつなぐ。

「持ち帰りタスク」
 「共有タスク」

今日のテーマ	絵本・紙芝居・詩	歌・手遊び・踊り	園園工作	持ち帰りタスク ／共有タスク
力を合わせて	スイミー	おはなし指さん	大きなお魚づくり	家族の役割
いろいろな食べ物	はらぺこあおむし	おべんとう箱	食べ物カードづくり	冷蔵庫の中

持ち帰りタスク

- 「今日のテーマ」に沿ったタスク。
 家に持ち帰り、**家族と一緒に**完成させる。

【目的】

1. 日常的／習慣的な語彙や表現に偏りがちな家庭での日本語使用を拡張すること。
2. 親に、日常生活では気づきにくい子どもの語彙・表現力を発見する機会を与えること。

日本語力の弱点

週に一日のみの
補習校活動の限界

共有タスク

- 持ち帰りタスクの成果を教室内で互いに報告し合う。

【目的】

1. 他者の報告を通して、一家庭では得られなかった語彙・表現に触れる機会を与えること。
2. 既知情報が異なる近親者以外の者との言語コミュニケーションの機会を与えること。
3. 一対一の発話から、「一対多」への発話へとコミュニケーションのスキルを伸長すること。

日本語力の弱点

認知発達／情緒発達に働きかける活動

「聞き手に分かるように話そう」というような意識は、「実際に聞き手の役割をとる活動に参加することによって、[略]育っていくもの」(内田, 1999)

コミュニケーション力の弱点

実践例1

対象: 幼稚部 年長組 5~6歳児(6名)

《今日のテーマ》 **力を合わせて**

教室活動①: 絵本『スイミー』の読み聞かせ



(レオ・レオニ著、谷川俊太郎訳、好学社)

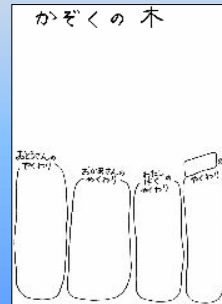
教室活動②: 大きなお魚づくり



◆持ち帰りタスク

「家族の役割」

家庭の中で一人ひとりがどんな役割なのかを、お子さんと一緒に
お話してみてください。お父さんは?お母さんは?僕は?妹は?



◆共有タスク



実践例2

対象：幼稚部 年中・年長組合同 4～6歳児（13名）

《今日のテーマ》 **いろいろな食べ物**

教室活動①： 絵本『はらぺこあおむし』の読み聞かせ

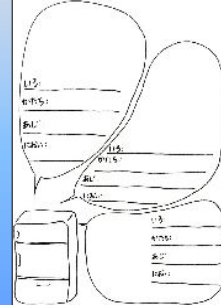


(エリック・カール著、もりひさし訳、偕成社)

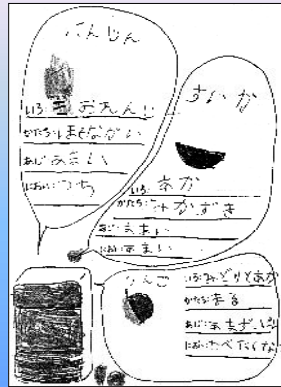
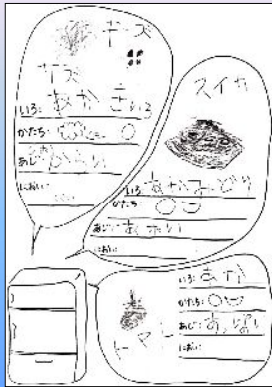
◆持ち帰りタスク

「冷蔵庫の中」

冷蔵庫の中にあるものの「味、色、形、におい」について、お父さんと一緒に観察してみてください。見て、触って、嗅いで、かじって…！



◆共有タスク



《実践講師Hの感想①》

「おうちでやってみよう」(持ち帰りタスク)の課題で、子ども達のいろいろな成長や気持ちの変化がみられました。4歳児なので、「おうちでやってみよう」の課題で、発表するなんて、わずかな時間。でも、授業のわずかな時間の中で、講師がやってきた課題をみんなの前で読むことで満足する子ども、自分で読めるところだけ言って満足する子ども、「なんかやってきたー、見てー！」とやってきた課題を見せることで満足する子ども、他の子どもの課題に興味を示してじっと聞く子どもなど、いろいろな姿がみられ、毎回の違う姿に驚きました！

親子で取り組んできたことを補習校でみんなに見せたいと思うこと、話したいと思うこと、そして、みんなで「○○ちゃんのところはすごいね」「○○くんってこんなことができるんだね」「○○ちゃん、きれいに色がぬれたね」「○○ちゃんのお父さんはこんなことができるんだね」などと、認め合うこと、共感しあうこと、お互いの家族について知ること、など、たくさんのお話を子ども達は得たと思います。毎回、年中組の7人それぞれ違う感じ方をすること、表現をすることで、内面的に子ども達が大きく成長したと思います。

◆「テーマシラバス」の実践で得られた成果

- 講師 → 各種活動の選択がスムーズに。教案作成時の負担が軽減。
- 子ども → 「今日の活動」が思い出(記憶)に残りやすくなった。
- 親 → 今日我が子が何をしたかが分かりやすくなった。
- 講師・親 → 互いの報告が行いやすくなった。共通理解が得やすくなった。

《モジュール型カリキュラム》

子どもの年齢差/日本語力差/興味・関心/クラスサイズに応じて柔軟な対応が可能

B. 読み聞かせカード記録

- 「ママ・パパの宿題」とし、子どもを通して週に一回提出
(提出枚数は自由) → 次週、コメントをつけて返却・ファイル

☆よみかきカード☆

年月日(曜日): _____

★本の題名(作者名): _____

★お父さんの感想:

★子どもの様子:

★お母さんのコメント:

読み聞かせカード記録

認知発達
情緒発達

日本語力の
弱点

【目的】

1. (自力で読める子どもに対しても)積極的に読み聞かせを行なうこと。
2. 親自身に絵本を好きになってもらうこと。
3. 子どもの発達を目に見える形で振り返ることができるようにすること。

◆「読み聞かせカード記録」の実践で得られた成果

《実践講師Hの感想②》

絵本に対するお母様の感想、子ども達の様子、だけでなく、子ども達のご家庭の様子、成長、補習校ではみられない一面など書いて頂きました。毎回、楽しく読ませて頂き、時には、一緒に考えることもありました。

このカードで、普段、補習校の限られた時間内で話せないことをお話できたように思います。

週に一日のみの
補習校活動の限界

◆実践から得られた成果

●補習校幼稚園における問題点

- (1) 講師の育成・研修が困難
 - ・日本からの派遣教員や専門指導員がいない
 - ・補習校児童に適したカリキュラムや教材がない
 - ・教育方針／指導目標があいまい
- (2) 合同クラスになりやすい
 - 児童数増大
 - 児童の成長差
 - 児童の言語力差

テーマシラバス
「持ち帰りタスク」
「共有タスク」

読み聞かせカード
記録

●補習校実践を考えるにあたっての留意点

1. 日本語力の弱点を補うべき活動の工夫
(補習校児童の日本語力の特徴)
 - ・文脈／場面への依存度が低い読み書き言語能力が低い
 - ・共通の情報／認識を持たない他者との言語コミュニケーション能力が低い
2. 認知発達・情緒発達にも働きかける活動の工夫
3. 週に一日のみの補習校活動の限界
4. 児童間の日本語能力差

3. 実践から得られた所感と今後の課題

家庭との連携を「意識的」かつ「密に」図ること



補習校実践における困難を現実的に軽減させる近道

補習校とは・・・

何かを教え授ける場

さまざまな機会を提供する場

《今後の課題》

- 実践結果の記録・収集・分析
 - 幼稚園の「教育目標」・「評価法」の検討
- 小学部・中学部への継続・発展・応用の検討

ご清聴、ありがとうございました。

【引用・参考文献】

- 内田伸子 (1999) 『発達心理学』岩波書店。
-----監修、早津色子・著 (2004) 『異文化に暮らす子どもたち ことばと心をはくくむ』金子書房。
奥村三葉子 (2005) 「ドイツの日本語補習授業校における日本語教育に関する調査」修士論文、東京学芸大学。
----- (2007) 「継承日本語教育における学習者中心の教室活動に関する一考察」『ヨーロッパ日本語教育』11, ヨーロッパ日本語教師会。
齊藤ひろみ・編集 (2006) 「第6回外国人児童生徒教育フォーラム—外国人児童生徒の就学前教育を考える—」東京学芸大学国際教育センター。
佐藤郡衛、片岡裕子・編著 (2008) 『アメリカで育つ日本の子どもたち—バイリンガルの光と影』明石書店。

奥村 三葉子
okumura@uni-bonn.de